

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成24年7月9日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 教育学研究科

職名・学年 修士課程1回

氏名 梶村昇吾

助成の種類	平成24年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第28回国際神経精神薬理学会		
発表題目	Involvement of the 5-HT2A receptor gene polymorphism in impulsivity, in trait anxiety and in activity of VLPFC: A NIRS study		
開催場所	Sweden, Stockholm, Mässvägen 1 Älvsjö, Stockholmsmässan AB		
渡航期間	平成 24年 6月 2日 ~ 平成 24年 6月 10日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無		
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円	
	使用した助成金額	200,000円	
	返納すべき助成金額	200,000円	
	助成金の使途内訳	渡航費全額:173,990円	
		宿泊費の一部:26,010円	
		以上	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 御財団が募集締め切り以降から決定までの処理を迅速に行ってくださいましたことで、6月初頭に開催された学会への助成に対しても審査していただくことができ、結果助成を受けることができました。当方にとっては大変ありがたいことで、母親共々感謝しております。ありがとうございました。現時点でさらに御財団に希望することはございませんが、唯一、今後とも助成事業を継続していただけますことを望んでおります。よろしく願いいたします。		

平成 24 年 国際研究集会発表助成Ⅱ期
成果の概要

教育学研究科教育科学専攻 修士課程 1 回 梶村昇吾

参加研究会名：第 28 回国際神経精神薬理学会 (28th CINP)

開催場所：Stockholmsmässan, Stockholm, Sweden

開催期間：平成 24 年 6 月 3 日～7 日

【会議概要】

今回報告者が参加した上記学会は、主に精神医学系の第一線で活躍されている医師や研究者が参加し、自閉性障害 (autism spectrum disorders: ASD) や統合失調症 (schizophrenia), 心的外傷後ストレス障害 (posttraumatic stress disorder: PTSD) など多様な精神障害について、その遺伝的・生理学的機序に関する研究結果や薬理・医療機器による治療の作用機序や効果等の最新知見の報告およびディスカッションを行うものであった。期間中には全 184 のレクチャー・シンポジウムと全 784 のポスター発表が行われた。

【参加意義】

報告者は主に健常参加者を対象として、ヒト認知機能の背景にある遺伝子-脳-行動間の相互影響過程について明らかにすることを目的とした研究を行っている。そのため、一見今回の学会内容は報告者の研究内容と一致しないように思われる。しかし、精神障害には“健常”と“障害”を明確に区別することが難しく、健常から障害までがスペクトラム状であると考えられるものが多くあるため、特に精神障害の遺伝的・生理学的な生起プロセスや、非侵襲的脳刺激法についての作用機序・効果等についての最新知見に触れられたことは大変有益であった。

また、報告者が発表した研究に対して、日本人の若手研究者を対象とした奨励賞を日本神経精神薬理学会から授与されている。これは、本研究が学会に対して十分な価値を提供したと保証するものであると同時に、報告者にとって今後の研究に対して一層の励みとなるものであり、大変大きな収穫であった。

さらに、本学会にはノーベル生理学賞受賞者であるアルビド・カールソン博士 (Dr. Arvid Carlsson) が講演者として出席しておられ、わずかではあったが会話の機会を得ることができた。報告者にとって関心の深い神経伝達物質のドーパミンについて、神経伝達物質としての働きを最初に示された博士と直に接する機会を得られたことは、今回の学会参加の中で最も有意義な体験であり、今後の研究に対してこれ以上ない励みとなった。

【研究報告】

報告者はポスターセッションにて、「Involvement of the 5-HT_{2A} receptor gene polymorphism in impulsivity, in trait anxiety and in activity of VLPFC: A NIRS study」の題目で研究結果を報告した。本研究は、ヒト生活行動全般に不適応をもたらさうる行動的衝動性（本研究では報酬/罰 Go-NoGo 課題の反応時間によって評価）と、運動制御を司ると考えられている腹外側前頭前野（ventro-lateral prefrontal cortex: VLPFC）、および VLPFC 活動に関与するとされているセロトニン（5-hydroxytryptamine: 5-HT）の神経伝達を調節する 5-HT_{2A} 受容体遺伝子多型 {5-HT receptor gene polymorphism; AA 型, G 型 (AG 型と GG 型を含む)} との関連について検討したものである。ポスターセッションのアクティブタイムは 1 時間と限られていたが、質問者の方々と有意義な議論をもつことができ、今後研究を進めるうえでの課題について気づきが得られたのは大きな収穫であった。また、本研究結果は 5-HT_{2A} 受容体遺伝子多型によって行動衝動性やパーソナリティ特性だけでなく特定状況下における脳活動にも差がみられることを示しており、注意欠陥・多動性障害（attention deficit/ Hyperactivity disorder: ADHD）や境界性パーソナリティ障害（borderline personality disorder: BPD）などの精神障害にみられる衝動性について、その背景要因となりうる機構の一端を示した点で精神医学領域に貢献したものと考えられる。

【謝辞】

今回の学会参加によって、他では得ることのできない貴重な経験を数多く得ることができ、今後の研究に対して大変有益なものとなりました。学会参加にあたり、助成を賜りました京都大学教育研究振興財団に心より感謝申し上げます。